

# 子どもの科学読物の出版の諸要因

——学習指導要領の影響を中心に——

小川 真理子

基礎教育課程

Study on Effects of Ministry's Curriculum Guidelines on the Publishing of Science Books for Children

OGAWA Mariko

*Division of Liberal Arts and Science*

(Received November 12, 2001 ; Accepted January 18, 2002)

## 序

子どもの科学読物は社会の変遷とどのように同期した変遷をしてきているだろうか。昨年は大まかにこの30年間での子どもの本の移り変わりを見てきて<sup>1),2)</sup>、社会情勢等のさまざまなものが子どもの本に影響を与えていることを論じた。ここではより詳しく、昨年を中心にどのような要因がどの程度出版に影響を与えているかをみてみたい。

特に、1998年12月14日に告知された新しい学習指導要

領は、子どもの本の出版に大きな影響を与えていると思われる。この学習指導要領の実施は2002年4月1日からのことではあるが、教育現場への影響は、2000年から移行措置期間ということでは実質的には始まっている。指導要領の与える影響を中心に、子どもの本の現状を分析してみたい。

## I. 指導要領の変遷

学校教育を規定する学習指導要領（以下、指導要領と記載する）は、表1に見るように、戦後すぐに試案とし

表1 学習指導要領の変遷<sup>1)</sup>

<p>&lt;昭和22年 学習指導要領（試案）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 憲法、教育基本法、学校教育法などが施行され、戦後の教育に対する教師の手引きとして作られた</li> <li>● 戦前の修身・地理・歴史・公民を統合して社会科を新設した</li> <li>● 小学校で家庭科（男女共修）の設置、中学校では職業科を新設</li> <li>● 自由研究を新設</li> </ul>
<p>&lt;昭和26年 学習指導要領（試案）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科を4つの領域（国語算数・社会理科・音楽図工家庭科・体育）に分け、教科間の関連をはかる</li> <li>● 自由研究は小学校では教科外の活動、中学校では特別教育活動の時間となる</li> </ul>
<p>&lt;昭和33年 改訂（教育課程の基準として規定）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習指導要領を、教育課程の基準であると規定した</li> <li>● 教育課程は教科、道徳、特別活動、学校行事で編成される</li> <li>● 小・中学校に「道徳の時間」を新設</li> <li>● 基礎学力の充実、科学技術教育の向上に重点をおく</li> <li>● 中学校で職業・家庭科が技術・家庭科に改称、社会科が地理・歴史・政経の3分野にわけられる</li> </ul>
<p>&lt;昭和43年 改訂 昭和46年施行&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育の現代化がうたわれ、教育内容のレベルアップが図られた</li> <li>● 人間形成と体力の向上を重視</li> <li>● 教育課程の領域を教科、道徳、特別活動の3領域にわけた</li> </ul>

表1 学習指導要領の変遷<sup>1)</sup> (つづき)

<p>&lt;昭和52年 改訂 昭和55年施行&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ゆとりある、しかも充実した学校教育の実現（各教科の時数の削減、「ゆとりの時間」新設）</li> <li>● 教育内容の精選、個性や能力に応じた指導を重視</li> </ul> <p>&lt;平成元年 改訂 平成4年施行－現行版－&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基礎的・基本的な内容の指導の徹底</li> <li>● 小学校低学年で理科・社会を廃止、生活科を新設</li> <li>● 中学校で選択教科の拡大、習熟度別学習を可能にする</li> <li>● 国旗・国歌についての指導の徹底</li> </ul>
---

て出されたがその後約10年ごとに改訂され、現行の指導要領は平成元年（1989年）に作られたものである<sup>3-9)</sup>。1998年に新しい指導要領が策定され、2002年施行となっているが、すでに2000年から移行措置期間ということで、実際には各学校でその方針で動き始めている<sup>10)</sup>。

戦後アメリカの指導のもとに、戦前の、天皇を中心に据えた教育ではなく、民主主義教育を標榜して教育基本法、学校教育法などが作られていった、その流れの中で、初めての学習指導要領が作られた。それは戦後の混迷からどのように子供を指導していったらよいかという教師への手引きでもあった。その後欧米諸国に追いつくために学習内容のレベルアップが図られていったが昭和52年（1977年）の改訂で、学習の詰め込み教育への反省から、ゆとり教育への方向修正が行われ、それまで1190時限であった総授業時間数を1050時限に減らした。平成元年

（1989年）の改定では、授業時間数は変わらず、基礎・基本の重視、個性を生かす教育を目標とするに留まった。

今回の指導要領は平成10年7月（1998年）の教育課程審議会答申を受けて、完全学校週5日制を実施し、「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、幼児児童生徒に自ら学び自ら考える〔生きる力〕を育成するという方針の下に策定されたものである。総授業時間数も一挙に950時限と年間で70時限も減らし、学習内容も3割の削減を行った。

平成10年12月告示の指導要領では、特に以下の点が強調されている（表2）。

つまり、時間数を削減して、教えることは最低限のものにする（それに関しては、繰り返し行って学習内容は確実に定着するようにする）、しかし総合的な学習の時間で、自分から何かを見つけて学ぶことを学びなさい、

表2 平成10年告示の学習指導要領の要点

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること。 基本的な生活習慣や善悪の判断などの指導 ボランティア活動 歴史学習での、人物や文化遺産の重視 外国語、特に聞く話す教育の重視 など</li> <li>2. 自ら学び、自ら考える力を育成すること。 「総合的な学習の時間」新設 体験的な学習、問題解決的な学習の充実 知的好奇心や探究心、論理的な思考力や表現力の育成を重視 コンピュータ等の情報手段の活用を一層推進</li> <li>3. ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること。 年間授業時数の削減 教育内容を厳選し、ゆとりの中で基礎的・基本的な内容を繰り返し学習し、その確実な定着を図る。 中学校における選択学習の幅を一層拡大</li> <li>4. 各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること。 「総合的な学習の時間」を各学校が創意工夫を生かして展開する 授業の1単位時間や授業時数の運用の弾力化</li> </ol>
---

表3 総合的な時間の取り扱い

<p><b>第3 総合的な学習の時間の取扱い</b></p> <p>1 総合的な学習の時間においては、各学校は、地域や学校、児童の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うものとする。</p> <p>2 総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものとする。</p> <p>(1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。</p> <p>(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。</p> <p>3 各学校においては、2に示すねらいを踏まえ、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行うものとする。</p> <p>4 各学校における総合的な学習の時間の名称については、各学校において適切に定めるものとする。</p> <p>5 総合的な学習の時間の学習活動を行うに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。</p> <p>(2) グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること。</p> <p>(3) 国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等を行うときは、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること。</p>
--

それが生きる力に通じる、というのである。

従来の日本的な教育は、既存の知識を伝授する、それを自分の物とすることを主としてきた。これは明治以降のやり方というだけでなく、日本の伝統的な教育方法でもあった。これに対して、自ら課題を見つけ、自ら考える力を育成するということは日本の今までの教育の中にはなかったものであり全く新しい考えたかを教師もしていかななくてはできないものである。

この新しい教育を体現すべき総合的な学習の時間に関しては、このため指導要領の第1章 総則の中に特別に「総合的な学習の時間の取り扱い」と項目を設けて指示している。表3は小学校学習指導要領の第1章 総則 第3 総合的な学習時間の取り扱い であるが、中学校学習指導要領も第1章 総則 第4 総合的な学習時間の取り扱いとして、ほぼ同じ内容が記載されている。

## II. 総合的な学習の時間と新しい出版

総合的な学習の時間は、既存の授業とは全く異なる体系の授業となる予定である。

簡単にまとめると、次のようになる。

1. 子どもたちが、自分たちの興味をもとに何らかの課題を見つけ、それについて調べる。問題がある場合はどのように解決したらよいかを考える。

2. どのようにしたら自分の課題を調べられるかも、先生の指導のもとに各自が体得していく。

3. ただ調べるだけではなく、観察、実験、体験やものづくりなどを重視する。

これで見ると、総合的な学習の時間が扱う領域は国語、算数、理科などの枠にはとられず、横断的な総合領域であるため、授業をする教師には大きなとまどいがある。今まで全くこのような授業をしてきたことがないのであるから、教科のシステムも全くできていない。そのため、総合的な学習を目的とした本があれば先生の方も飛びついて買うことが予想される。

また、子どもたちが自分で課題を見つけるといって、普通にしていれば子どもたちが課題を見つけることはかなり困難である。課題を見つけるためには、はっきりした問題意識がなくてはならないのである。そのため、いろいろおもしろそうな問題をいくつか並べておいて、その中から子どもがピンときたものを選択させるということにもなってくるだろう。特に安易なものとしては、指導要領の中に例としてあげられている、国際理解、情報、環境、福祉・健康などが使われることになる。

実際、先生方のとまどいと、現代の本が売れなくて困っている出版事情を反映して、総合学習とか総合的な学習と

表4

書名	著者、監修者	出版社	出版年
生きる力をはぐくむ保健の授業とからだの学習ー健康教育・性教育・総合学習づくりの発想ー	数見 隆生	農文協	2001
「ホームページ」で学ぼう！遊ぼう！調べよう！ ー「自由研究」「総合学習」に使える子どものためのサイト集ー	キッズネット研	海苑社	2001
「食」で総合学習みんなで調べて作って食べよう！ 5		金の星社	2001
エネルギーの未来を考える 5	イアン・グラハ	文溪堂	2001
クックとタマ次郎の情報大航海術 図書館からはじめる総合学習・調べ学習	片岡 則夫	リブリオ出版	2001
くらしの中の知らない化学物質 5ー総合的な学習どうする 21世紀の環境問題ー		くもん出版	2001
つくって、そだてる！学校ビオトープ 7ー総合的な学習にやくだつー	佐島 群巳	ポプラ社	2001
パソコンで楽しい総合学習 2	荻宿 俊文	偕成社	2001
フィールドワークで総合学習自然・環境体験シリーズ 5		金の星社	2001
ふれあうことから始めよう高齢社会がわかる本 6ー総合的な学習福祉ー	一番ヶ瀬 康子	くもん出版	2001
ホームページガイド 4ー学習に役立つー	藤川 博樹	汐文社	2001
みんなで学ぶ総合的な学習 10	高野 尚好	国土社	2001
みんなの総合学習からだと健康 5	七尾 純	大日本図書	2001
もらってうれしい賞状&アイデアカード 総合学習対応版	加藤 辰雄	学陽書房	2001
教科を基礎にした米〈食と農〉からはじめる総合的な学習	鶴田 敦子	かもがわ出版	2001
写真とデータで考える 21世紀の地球環境 8	山極 隆	文溪堂	2001
植物による食中毒と皮膚のかぶれー総合的な学習ー	指田 豊	少年写真新聞	2001
総合学習につながる国語の授業 小学校編	井上 尚美	一光社	2001
総合学習遊んで学ぶ野菜の本 6	伊東 正	偕成社	2001
総合的な学習・学校からはじまる環境チェック 5	山岡 寛人	童心社	2001
総合的な学習にやくだつNHKにっぽん川紀行 4		ポプラ社	2001
総合的な学習に役立つくらしと国の省庁 12	菊池 武夫	小峰書房	2001
ここまで来た！環境破壊 7ー総合的な学習にやくだつー	奈須 紀幸	ポプラ社	2000
みんなで学ぶ総合的な学習 5	高野 尚好	国土社	2000
みんなの総合学習100のテーマ 5	荻宿 俊文	大日本図書	2000
わたしは町の探検記者 8 総合的な学習実践集	水越 敏行	学研	2000
横断的・総合的な学習にチャレンジ	加藤 富美子	音楽の友	2000
学校からはじめるみんなの自然たんけん 3ー総合的な学習の実践ー	姉崎 一馬	文研出版	2000
総合学習ジュニア版NHK週刊こどもニュース 3	池上 彰	汐文社	2000
総合学習に役立つボランティア 7	こどもくらぶ	偕成社	2000
総合学習に役立つみんなの世界遺産 7		岩崎書店	2000
総合学習ワンダーランドー子どもが大喜びするデジタル総合学習の世界ー	戸塚 滝登	旬報社	2000
総合的な学習3・4年生まちの探検隊 6		ポプラ社	2000
総合的な学習5・6年生生活動アイデア集 5	館野 健三	ポプラ社	2000
総合的な学習に役だつ劇の本 2	木村 たかし	ポプラ社	2000
総合的な学習のテーマが見つかるアイデア新聞 5		金の星	2000
総合的な学習に役立つ世界の家族 8ー広げよう!! 深めよう!! 国際理解ー	今西 大	鈴木出版	2000
総合的な学習調べよう身近な自然 6		学研	2000
地域に根ざした総合学習ー地域のひと・もの・こととの共生を求めてー	山口 満	黎明書房	2000
調べることから始めよう 4ー総合的な学習に役立つー	山崎 哲男	文研出版	2000
動植物のすみかビオトープをつくろう ホタル・トンボ池ーテーマ発見!総合学習体験ブッカー		ほるぷ出版	2000
はじめよう総合学習 8	梅澤 実	学習研究社	1999
総合的な学習に役立つ 心・からだ・生命を考える本 5		金の星社	1999

いう言葉をタイトルにつけた本がシリーズでかなり出版された。

例えば、タイトルに総合学習、または総合的な学習ないし総合的な学習という言葉を入れた出版に限ってみると、1999年から2001年（9月まで）の出版では表4のものがある。表題の後の数字が、シリーズの巻数である。

ここにあげたものは、先生が授業プランを立てるため

の指針書ではなく、子供向けの本のみである。ほとんどがセットになっていて、5巻程度、多いものでは12巻にもなっている。このようなものは個人では買わないので、いずれも学校図書館で、総合的な学習の手引きとして利用されるように作られたものである。

これらの出版物では表題または副題に総合的な学習というキーワードを入れておくことで、テーマの選定に苦勞している先生の目に触れることを意図しているわけで

表 5

書名	著者、監修者	出版社	出版年
国際理解に役立つわたしたちのくらしと世界の産業 8	飯島 博	ポプラ社	2001
国際理解にやくだつNHK地球たべもの大百科 14		ポプラ社	2001
国際理解に役立つ世界の衣食住 10		小峰書店	2001
英語で広がるわたしたちの世界 -国際理解に役立つ-	吉村 峰子	金の星社	2001
100年でなにが変わったか? 5 -国際理解っておもしろい!-	PHP研究所	PHP研究所	2001
インターネット活用アイデア 101 6	木村 義志	学研	2001
今だからこそ!国際理解	池上 彰	汐文社	2001
みんなで学ぶ総合的学習 10	高野 尚好	国土社	2001
英語を楽しくする7つの方法 -児童英語について一緒に考えましょう!-			2000
総合的学習に役立つ世界の家族 8 -広げよう!! 深めよう!! 国際理解-	今西 大	鈴木出版	2000
日本と世界のちがいを考える本 8 -国際理解にやくだつ-	飯塚 峻	ポプラ社	2000
総合的な学習5・6年生 活動アイデア集	館野 健三	ポプラ社	2000
国際理解にやくだつ世界の神話 7	吉田 敦彦	ポプラ社	2000
国際理解にやくだつNHK地球たべもの大百科 7	谷川 彰英	ポプラ社	2000
総合的な学習3・4年生まちの探検隊 6		ポプラ社	2000
国際理解に役立つよくわかる世界の宗教 6 -しらべて学ぶ外国の生活と文化-		岩崎書店	1999
行ってみたいなあんな国こんな国 5 -国際理解に役立つ-	東 菜奈	岩崎書店	1999

ある。

表4は全43点となっているが、1999年に出たものが2点、2000年に出たものが19点、2001年9月までに出たものが22点であり、2001年はまだすべて終わったわけではないのもっと多くなる可能性もある。1999年にはほとんど「総合学習」ないし「総合的な学習」の本が出ていなかったわけである。これを見るだけで、指導要領の影響で、この種の本がぐんと増えていることがわかる。

このうち『みんなで学ぶ総合学習』<sup>12)</sup>は5巻までが2000年、その後の6巻以降が2001年に出版されて2点と数えられている。従って、これを1点と数えると42点ものシリーズが出ていってよいであろう。内容としては、環境問題など科学に関するものが19点で最も多く、約半数を占めている。社会はそれに次いで多く、5点であるが、英語、国語などは少ない。もっとも英語は次に述べる国際理解というキーワードで非常に多くなっていくようであるので、必ずしも少ないわけではないだろう。他に、既存の教科でくくることはできないが、福祉や表現に関するものもある。

しかし、これらのように明確な分野が決まっているもの以上に多いのは、すべて分野を横断的に取り上げた、『みんなの総合学習100のテーマ』のような本である。全体の3分の1弱の13点がそうであった。このことから、まずテーマを見つけるということがいかに大変であるかがうかがわれる。

この他、総合的な学習という言葉ではなく、その例として挙げられている「国際理解」とか、指導要領の大きな柱である「調べる」というキーワードを使っているセット本も数多く出版されている。1999年から2001年(9月)ま

で、国際理解を書名の中に入れていた子供向けの本は表5の通りである。

「総合的な学習」とオーバーラップするものも多少はある。それは、総合的な学習の中での国際理解という捉え方をしているので当然でもあろう。それにしても、1999年に比べて格段に多くなっているのがわかるだろう。

### III. セット本と単行本

前章で述べた、総合的な学習をねらって作られた本はそのほとんどが5巻程度以上のセットで作られている。

子どもの科学の本は、そのほとんどがシリーズで作られ、全くの単発で出版されることはほとんどない。しかし、その多くは何年もかけてシリーズを完結させる、例えばあかね書房の「科学のアルバム」<sup>14)</sup>のようなものである。これは1970年から1988年まで、天文・地学編20巻、虫編23巻、鳥編12巻、動物編20巻、植物編22巻という壮大なシリーズであるが、どの巻も、その分野が専門の一人の著者が力を注いでゆっくり作っていることがわかる、充実したシリーズである。従来、ほとんどの本がこのようなシリーズで作られてきた。その特徴は、1冊1冊をていねいに作っていることであり、著者がおもしろく思っている自然の不思議を子どもたちに伝えたいという気持ちをはっきり伝わってくるものであった。

ところが近年、上で見たようなセットでの販売とか、シリーズでも一度で完結させてセットにして箱に入れて一緒に売るといった本が増えてきたように思える。これは、今まで述べてきた総合的な学習の時間と無関係ではない。

子どものための科学読物の分野で、2000年にシリーズ

でなおかつ一括して出版されたものは、29点であった(このうちの何点かは、表4と重なっている)。これは、10年前の1990年の同様な出版、つまりシリーズでなおかつ一括出版のものが7点であったことを考えると、かなりの増加である<sup>15)</sup>。なお、1996年以降のデータを表とグラフにしてみた。

1999年以降急に増えているのがわかる。これも、学習指導要領と総合的学習の時間が原因である。

別に、シリーズで一括して出版することが悪いわけではないが、どうしても内容が一般的で、あれもこれもいろいろなものについて表面的に触れることが多くなってしまふ。

例えば、学習研究社の「はじめよう総合学習」というシリーズ<sup>16)</sup>がある。①米・なし・トマトを調べる ②おかし・そば・とうふを調べる ③えんぴつ・セロハンテープ・電卓を調べる ④テレビゲーム・人形を調べる ⑤Tシャツ・着物を調べる ⑥電気自動車・リニアモーターカーを調べる ⑦電気・ペットボトル・再生紙を調べる ⑧インターネット・コンビニエンスストアを調べる となっている。1巻で、いくつものことを調べるあまり、原料とか作り方、作業工程などについては書かれているが、それ以上の突っ込んだ話題はないのでそれ以上問題意識を深めるといふようなことは難しいのではないだろうか。

総合的な学習を意識して作っているシリーズにも、従

表6 シリーズ一括出版点数

年	シリーズ一括出版点数
1996年	6
1997年	9
1998年	6
1999年	20
2000年	29

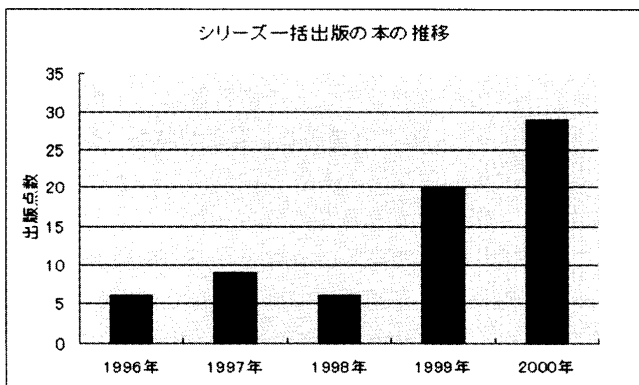


図1 シリーズ一括出版の本の推移

来のような1冊1冊を作っては順次出版している本もある。近年かなり精力的に作っているそのようなシリーズの代表に、農文協の「そだててあそぼう」のシリーズがある。1997年から始まって既に35巻が出版されており、まだ完結はしていないのもっと巻を重ねられると思われる。例えば『トマトの絵本』<sup>17)</sup>、『アサガオの絵本』<sup>18)</sup>のような栽培植物だけではなく『ヒツジの絵本』<sup>19)</sup>や『ニワトリの絵本』<sup>20)</sup>のような小動物をテーマにしたものもあるが、どれも1冊で1つの対象を取り上げているので、かなり細かく育て方のノウハウも知ることができるだけでなく、観察のポイント、その料理法や加工法、栽培の歴史など文化的背景までもが書かれている。実際に育てられるものばかりではないが、栽培農家などに行き見学させてもらえればとてもよく身につくものである。著者はもちろん1冊ごとに異なるが、画家もその内容にあった絵を描く人が担当しているので、それぞれの巻が独立して個性豊かに仕上がっている。このことは読むものの立場からは、とても大切なことである。

『ダイコンの絵本』<sup>21)</sup>を例にとると、栽培の仕方のほかに、たくあんや切干大根、カテ切りに挑戦して先人の知恵を学ぶ。また江戸時代に端を発した豊かな品種改良の話、大黒様の好物の二股大根やハツカダイコン、カイワレダイコンの話など非常に多彩であり、歴史的なことに興味のある子にも栽培に興味のある子にも、もっと知りたいとかやってみようという気にさせるようにできている。

子どもたちの読書離れを考えると、子どもに手渡す1冊1冊の本の質が大きく問われるこのごろである。自分で課題を決めてそれについて調べる「総合的な学習」を進めるにあたっては、通り一遍に調べてお茶を濁すような調べ方ではなく、次々に調べたい事柄が出てくるような本を与えたいものである。

#### IV. 指導要領と理科

新指導要領では、I章でも述べたように、自ら学び、自ら考える力を育成することを目標とし、そのため体験的な学習をするように指導している。つまり、ただ調べるだけではなく、観察、実験、体験やものづくりなどを重視している。これを受けて、教科書でも所要所に科学あそびなど子どもたちが楽しんで実験して、その中で自然を理解できるように工夫している。

科学あそびの本は近年かなり多く出版されているが、これも指導要領のこのような方向と無関係ではない。もちろん、子どもたちの科学離れに対する危機感もある。2000年には57冊もの科学遊びの本が出版されたが、特に学校の先生方が研究し、編集しているものも多い。ガリ

レオ工房は高校の先生が中心の会であるが、『ガリレオ工房のおもしろ実験クラブ 全14巻』(ポプラ社)や『ガリレオ工房の科学あそび 全3巻』(実教出版)など精力的に研究・出版している。

## V. まとめ

新指導要領が子どもの本の出版に大きな影響を与えていることは明らかである。

1. まず、現在の低迷した出版事情に新たな需要を作っているという点では大いに評価できるだろう。

経済情勢の悪化により、普通の人々がすぐに節約できる部分という、一番に本を上げることができる。これは、買わなくても、図書館で借りてくこともできるからである。大人の本以上に子どもの本はその影響を受ける。

子どもの本が売れなくなった出版社は、確実に需要のある図書館や学校図書館を対象とした本を作るようになる。ちょうどその時期と重なって登場した指導要領の改訂による「総合的な学習」の時間が出版の新たな分野を作ったとも言える。

新しい授業形態の登場にとまどう先生に材料を提供する意味あいも含めて、表題に「総合的な学習」とか、「国際理解」などのキーワードを使っているものが目立っている。

2. しかし中には、すべてを網羅するだけで、一つ一つの深めかたが足りないものもある。それは特に、セツトで販売する形態のものに多いようである。

2ページ見開きで、1つのテーマについて取り上げ、全体としてあれもこれもという欲張りな編集の本の場合は、特にそう感じるものが多い。知識は得られるのであるが、興味が深まっていくということがないため、その後の研究が広がっていかないのではないだろうか。

出版する側も、手に取る子どもの側に立って本作りをして欲しい。やはり著者が本当におもしろいと感じている内容を書いているものは、大人でも子どもでも読み応えが違ってくるのである。そのような本が結果的には総合的な学習の推進にも大きな力になると思われる。

3. 科学あそび、理科あそびの本もかなり出版されてきている。特に、実際に「総合的な学習」の推進の中心的役割を担ってきた教員の教材研究などから発展したも

のも多い。興味のある子が一人でも行なえるような解説と工夫、どうしてそうなるのか、原理のわかりやすい説明が必要である。

4. もちろん、現場の先生方や研究者達においても総合的な学習の時間をどのように有効に使うかについて、大きな議論が巻き起こっている<sup>23)・24)</sup>。実際に勉強する子ども達が楽しんで身につけられる、そのような学習の助けになる本の出版を期待したい。

## 参考文献

- 1) 『科学読物の30年』小川真理子、赤藤由美子 連合出版(2000)
- 2) 「日本の科学読物」小川真理子 芸術世界 vol. 7 (2001)
- 3) 「中学校学習指導要領(平成10年12月)解説 総則編」文部省(編)東京書籍(1999)
- 4) 「中学校学習指導要領(平成10年12月)解説 理科編」文部省(編)東京書籍(1999)
- 5) 「小学校学習指導要領解説 総則編」文部省(編)東京書籍(1999)
- 6) 「小学校学習指導要領解説 生活編」文部省(編)東京書籍(1999)
- 7) 「小学校学習指導要領解説 理科編」文部省(編)東洋館出版社(1999)
- 8) 『子どもの目で読む小学校新学習指導要領』斎藤晴雄 民衆社(1990)
- 9) 『小学校 学習指導要領はどう変わったか』武村重和 国土社(1989)
- 10) 平成10年12月告示の学習指導要領本文は、<http://www.monbu.go.jp/news/00000317/s-sosoku.html> を参照した。
- 11) 『教育の制度と経営』伊津野朋弘編 学芸図書株式会社(1991)
- 12) 『みんなで学ぶ総合学習』高野 尚好監修 国土社(2000)
- 13) 『みんなの総合学習100のテーマ』苺宿 俊文監修 大日本出版(2000)
- 14) 『科学のアルバム』あかね書房(1970~1988)
- 15) 『科学読物データバンク98』科学読物研究会 連合出版(1998)
- 16) 『はじめよう総合学習』学習研究社(1999)
- 17) 『トマトの絵本』もりとしひと編 農文協(1996)
- 18) 『アサガオの絵本』わたなべよしたか著 農文協(2001)
- 19) 『ヒツジの絵本』むとうこうじ編 農文協(2000)
- 20) 『ニワトリの絵本』やまがみよしひさ編 農文協(1998)
- 21) 『ダイコンの絵本』佐々木寿編 農文協(1999)
- 22) 「特集 21世紀の教科書はこれでいいのか」千葉・神戸理科サークル他「理科教室」2001年10月
- 23) 「総合的な学習のために」伊藤裕一他「理科教室」2001年11月